

1番の歌 エホバとはどんな方か

憐れみ深く「地上の人全てを裁く方」を信頼する

「地上の人全てを裁く方は、正しいことを行われるのではありませんか」。創世記 18:25 邪悪な人と一緒に正しい人も滅ぼして、正しい人と邪悪な人と同じ目に遭わせるようなことを、あなたがなさるはずはありません。あなたに限ってあり得ないことです。地上の人全てを裁く方は、正しいことを行われるのではありませんか

ポイント：エホバは憐れみ深く、正しい裁きを行う方です。正しくない人の復活について考え、その点に関する理解を深めます。

1. エホバはアブラハムにどんな大切な点を教えましたか。

アブラハムにとって忘れられない会話があります。エホバは天使を通して、ソドムとゴモラを滅ぼすと言いました。忠実な人アブラハムはそれを聞いて動搖し、こう尋ねます。「あなたは本当に、邪悪な人と一緒に正しい人も滅ぼされるのですか。……地上の人全てを裁く方は、正しいことを行われるのではありませんか」。エホバはこの愛する友に、正しい人を滅ぼすことは決してないと辛抱強く教えました。（創 18:23-33）それでアブラハムは近づいてこう言った。「あなたは本当に、邪悪な人と一緒に正しい人も滅ぼされるのですか。24もし町の中に正しい人が 50 人いるとしたらどうでしょうか。それでも滅ぼされますか。50 人の正しいのためにその町を容赦することはされないのでしょうか。25邪悪な人と一緒に正しい人も滅ぼして、正しい人と邪悪な人と同じ目に遭わせるようなことを、あなたがなさるはずはありません。あなたに限ってあり得ないことです。地上の人全てを裁く方は、正しいことを行われるのではありませんか」。26エホバは言った。「ソドムの町に正しい人が 50 人いるなら、その人たちのために町全体を容赦しましょう」。27アブラハムは再び言った。「エホバ、お願ひです。土と灰にすぎない私ですが、申し上げさせてください。28もし正しい人の数が 50 人に 5 人足りないとしたらどうでしょうか。5 人足りないので町全体を滅ぼされますか」。神は言った。「45 人いるなら、滅ぼしません」。29アブラハムはさらに言った。「もし 40 人だとしたらどうでしょうか」。神は答えた。「その 40 人のために、滅ぼすことはしません」。30アブラハムは続けた。「エホバ、どうか、お怒りにならずに聞いてください。もし 30 人しかいないとしたらどうでしょうか」。神は答えた。「30 人いるなら、滅ぼしません」。31アブラハムはさらに続けた。「エホバ、お願ひです。申し上げさせてください。もし 20 人しかいないとしたらどうでしょうか」。神は答えた。「その 20 人のために、滅ぼすことはしません」。32アブラハムは言った。「エホバ、どうか、お怒りにならずにもう一度だけ聞いてください。もし 10 人しかいないとしたらどうでしょうか」。神は答えた。「その 10 人のために、滅ぼすことはしません」。33エホバは話し終えると去っていき、アブラハムは天幕に帰った）私たちはこのことを考えると本当に安心できます。

2. エホバが正しくて憐れみ深い裁きを行うと確信できるのはどうしてですか。

2 私たちはエホバが正しくて憐れみ深い裁きを行うことをどうして確信できますか。「エホバは心の中を見る」からです。（サム一 16:7）しかしエホバはサムエルにこう言った。「彼の容姿や背の高さに注目してはいけない。私は彼を選んでいない。人間の見方と神の見方は違う。人間は目に見えるものを見るが、エホバは心の中を見る」）しかも、「全ての人の心」をご存じです。（王一 8:39 あなたが、住まいである天からお聞きになり、許し、行動を起こし、それぞれの歩みに応じた報いをお与えになりますように。あなたは一人一人の

心をご存じだからです。あなただけが全ての人の心を知っておられます。[代一 28:9](#) そして、わが子ソロモン、あなたは父の神を知り、心を尽くして喜びの(*進んでる)心で神に仕えなさい。エホバは全ての心を探り、考えの傾向を全て見極める方だ。あなたが神を探し求めるなら、神を見つけられるが、神を捨てるなら、神からいつまでも退けられる) これはすごいことです。エホバの裁きは私たちの理解をはるかに超えています。使徒パウロが「神の裁きを知り抜くこと[は]決してできません」と言っているのはもっともなことです。
([ロマ 11:33](#) ああ、神の祝福は何と豊かで、神の知恵と知識は何と深いのでしょうか。神の裁きを知り抜くことも、神の道を知り尽くすことも決してできません)

3-4. どんな疑問を持つかもしれませんか。この記事ではどんなことを考えますか。 ([ヨハネ 5:28, 29](#))

3 私たちもアブラハムと同じような疑問を持つかもしれません。ソドムとゴモラの人たちなどエホバに滅ぼされた人たちには復活の希望はないのでしょうか。そういう人々は「正しくない人[の]復活」に含まれないのでしょうか。 ([使徒 24:15](#) また、私はこの方たちと同じ希望を持っております。神が正しい人も正しくない人も復活させてくださるという希望です)

4 復活について、私たちはどんなことを理解しているでしょうか。最近、「命の復活」と「裁きの復活」に関する理解が調整されました。* [「ものの塔」2022年9月号 14-19ページを参照。](#) ([ヨハネ 5:28, 29](#) このことに驚いてはなりません。記念の墓の中にいる人が皆、彼の声を聞いて出てくる時が来ます。29 良いことをした人は命の復活へ、悪いことを行った人は裁きの復活へと出てきますを読む。) その調整によって今回さらに明らかになった点について、この記事と次の記事で学びます。では、私たちはエホバの裁きについてどんなことを知っていて、どんなことは知らないでしょうか。

知らないこと

5. ソドムとゴモラで滅ぼされた人たちについて、以前はどのように説明されていましたか。

5 正しくないとエホバに判断された人がどうなるかについて、以前の出版物で取り上げられたことがあります。そこでは、ソドムとゴモラの人たちのように、エホバに滅ぼされた人たちには復活の希望ないと説明されていました。でも、祈って注意深く調査した結果、そうとは言い切れないことが明らかになりました。

6. エホバが正しくない人を滅ぼしたどんな例がありますか。私たちはどんなことについては知りませんか。

6 聖書には、エホバが正しくない人を滅ぼした記述が幾つかあります。例えば、エホバはノアとその家族以外の全ての人を洪水によって滅ぼしました。また、約束の地に住んでいた7つの国民をイスラエル人によって滅ぼしたこともあります。天使が1晩のうちに18万5000人のアッシリア兵を討つようにしたこともあります。 ([創 7:23](#) こうして、神は地上の生きているもの全てを滅ぼした。人、動物、地面を動く生き物、空を飛ぶ生き物が全て地上から滅びた。生き残ったのは、ノアと、一緒に箱舟の中にいた家族や生き物だけだった。[申 7:1-3](#) エホバ神は、あなたが入って取得しようとしている土地に連れていってくださる時、人口の多い国民をあなたの前から取り除きます。それは、ヘト人、ギルガシ人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人で、あなたより人口が多くて強い7つの国民です。2 エホバ神は彼らをあなたに渡し、あなたは彼らを打ち破ります。必ず滅ぼし尽くしなさい。彼らと契約を結んだり、好意を示したりしてはなりません。3 彼らと結婚による同盟を結んで(*姻戚関係になって)なりません。あなたの娘を彼らの息子に与えてはならず、彼らの娘をあなたの息子のために迎えてもなりません。[イザ 37:36, 37](#) それからエホバの天使が出ていき、アッシリア人の陣営で18万5000人を討った。人々が朝早く起きて見ると、皆、死んでいた。37 それで、アッシリアのセナ

ケリブ王はそこを去り、帰ってニネベにとどまった) エホバは、こうした人たち全てに**永遠の滅び**という裁きを下したのでしょうか。この人たちには**復活の希望はない**のでしょうか。聖書によると、そうとは**断言できません**。なぜそういえますか。

7. 大洪水の時やイスラエル人がカナンの地を征服する時に滅ぼされた人たちについて、どんなことは分かりませんか。(挿絵を参照。)

7 私たちにはエホバが一人一人をどのように裁いたかは分かりません。滅ぼされた人たちに、エホバについて学び、生き方を改める機会があったかどうかは分かりません。聖書によると、大洪水が起きた時代、ノアは「**正しいことの伝道者**」でした。(ペテニ 2:5 また、古代の世界を処罰しないでおくことはせず、神を敬わない人々の世界に洪水をもたらしました。ただし、**正しいことの伝道者**ノアをほかの7人と共に保護しました) でも、ノアが**巨大な箱船**を造りながら**地球上にいる全ての人に**洪水について**警告**できたとは書かれていません。同じように、カナンに住んでいた邪悪な人たちみんなに、エホバについて学び、生き方を改める機会があったかどうかは**分かりません**。



ノアが家族と一緒に巨大な箱船を造っている。**箱船を造りながら大々的に伝道**したかは**記録されておらず**、洪水が起きる前に**地球上の全ての人に伝道**できたかは**分からぬ**。(7節を参照。)

8. ソドムとゴモラの人たちについてどんなことは分かりませんか。

8 ソドムとゴモラの人たちについてはどうでしょうか。正しい人口トは邪悪な人たちに囲まれて**生活**していました。でも、ロトがそれらの人全員に**伝道**したかは**分かりません**。また、そこにいた人たち一人一人が、**何が正しくて何が間違っているか**を**知っていたか**は**分かりません**。ソドムの男たちがロトの家に来ていた客たちを**レイプ**しようとして、家を取り囲んだ時のことを考えみてください。聖書によると、その集団の中には「**少年から老人まで**」いました。少年たちは、**その行動がどれほど悪いか**理解することさえできていなかったかも**しません**。(創 19:4 彼らが床に就く前、町の男たちがやって來た。少年から老人までソドムの男たちが集団になって家を取り囲んだのである。ペテニ 2:7 そして、不法な人々の恥知らずな行い(c*ギ語アセルゲイア)に非常に苦しんでいた、正しい人口トを救い出しました) 憐れみ深い神エホバはそこにいた一人一人をもう**復活**させない、**と言**い切れるでしょうか。確かにエホバは、**この町には正しい人が10人もいない**とアブラハムにはつくり言いました。(創 18:32 アブラハムは言った。「エホバ、どうか、お怒りにならずにもう一度だけ聞いてください。もし10人しかいないとしたらどうでしょうか」。神は答えた。「**その10人のために、滅ぼすことはしません**」) それで、ソドムとゴモラの人たちは正しくない人たちで、エホバがその人たちを**滅ぼ**した

のは正当なことでした。でも、その人たちのうちの誰も「正しくない人[の]復活」を経験しないといえるでしょうか。私たちにははっきりしたことは分かりません。

9. ソロモンについてどんなことは分かりませんか。

9一方で、聖書には最初は正しい人だったのに後から悪くなつた人についても書かれています。ソロモン王がその1人です。ソロモン王は、エホバがどんな方かや、エホバをどのように崇拝すべきかをよく知っていました。エホバからたくさん良いものを与えられていました。でも後に偽の神々を崇拝するようになりました。このことはエホバを怒らせ、その後数百年にわたつてイスラエル人は苦しむことになりました。聖書によると、「ソロモンはやがて死に、父ダビデの町に葬られた」とあります。（王一 11:5-9）ソロモンは、シドン人の女神アシュトレテとアンモン人の極めて不快な神ミルコムに従つた。6また、エホバから見て悪いことを行つた。父ダビデとは違い、エホバに全く従つたわけではなかった。7ソロモンが、モアブの極めて不快な神ケモシュのため、またアンモン人の極めて不快な神モレクのために、エルサレムの前の山に高い場所を築いたのは、その頃だった。8自分たちの神々に犠牲の煙を立ち上らせたり犠牲を捧げたりしていた外国人の妻たち全てのために、同じように高い場所を築いた。9エホバはソロモンに対して憤った。彼の心がイスラエルの神エホバから離れたからだった。神が2度も彼に現れた上、43ソロモンはやがて死に、父ダビデの町に葬られた。代わりにソロモンの子レハベアムが王になった。王二 23:13また、エルサレムの前、「破壊の山（c*オリーブ山、特にその南端の、「過ちの山」としても知られる場所のこと）」の南（d*右/c 東に向かって右ということ）にあった高い場所を汚して使えなくした。それは、イスラエルの王ソロモンが、シドン人の極めて不快な女神アシュトレテ、モアブの極めて不快な神ケモシュ、アンモン人の忌まわしい神ミルコムのために築いた場所だった）ソロモンの死に関して使われている元のヘブライ語を直訳すれば、ソロモンは「父祖たちと共に横たわり」ました。この表現はダビデ王などエホバに忠実に仕えた人についても使われています。（列王第一 2:10その後、ダビデは死んで（d*父祖たちと共に横たわり）、「ダビデの町」に葬られ、脚注と比較。）では、このように埋葬されたことは、ソロモンが復活する根拠になりますか。聖書にそうは書かれていません。ただ、「死んだ人は自分の罪から放免されている」ので、ソロモン王は復活すると考える人もいるかもしれません。（ロマ 6:7死んだ人は自分の罪から放免されているのです）でも、亡くなつた人全てに復活する権利があるというわけではありません。復活は愛情深い神からの贈り物です。エホバはその贈り物をご自分に永遠に仕えてほしいと思う人に与えます。（ヨブ 14:13, 14私を墓（c*へ語シェオル）に隠してください！あなたの怒りが過ぎ去るまで私を隠し、私のために期限を定め、時が来たら私を思い出してください。14人は死ぬと、もう一度生きられるでしょうか。私は捕らわれている間（c*死んでいる間のこと）、解放の時が来るまでずっと待ちます。ヨハ 6:44私を遣わした父が引き寄せてくださらない限り、誰も私のものに来ることはできません。私はその人を終わりの日に復活させます）ソロモンはこの贈り物を受けることができるでしょうか。それはエホバにしか分かりません。私たちに分かっているのは、エホバはいつも正しいことを行うということです。

知っていること

10. エホバは人間を滅ぼすことについてどう思っていますか。（エゼキエル 33:11）（挿絵も参照。）

10 エゼキエル 33:11 彼らに言いなさい。『主権者である主エホバはこう宣言している。「生きている私自身に懸けて誓う。私は悪い人の死を喜ばず、かえって、悪い人が生き方を変えて生き続けることを喜ぶ。悔い改めて、悪い行いをやめなさい。イスラエル国民よ、あなたたちが死ぬようなことがあってよいだろうか』』を読む。エホバは人間を滅ぼすことについてどう思っているかを教えてくれています。使徒ペテロは聖なる力に導かれて、エホバは「一人も滅ぼされ[ない]ことを望んでいる」と書きました。（ペテ二 3:9 エホ

バ(*)は約束を果たすのが遅いと考える人もいますが、そうではありません。神は、一人も滅ぼされることなく、全ての人が悔い改めることを望んでいるので、皆さんことを辛抱しているのです) これは預言者エゼキエルが書いたメッセージと似ています。こうした言葉は私たちを安心させてくれます。エホバは十分な理由がない限り、誰かを永久に滅ぼすようなことはしないということを知ることができます) エホバは可能な限りいつでも憐れみを示してくださいます。



正しくない人が復活する時、エホバについて学ぶ機会がさまざまな背景の人を開かれる。(10節を参照。)

11. どんな人は復活しませんか。

11 復活しない人たちについて、私たちはどんなことを知っていますか。この点について聖書には幾つかの例しか載せられていません。*アダム、エバ、カインについては「ものみの塔」2013年1月1日号12ページの脚注を参照。イエスは、ユダ・イスカリオテは復活しないと言いました。(マル14:21)

人の子は書かれている通り去っていきますが、人の子を裏切るその人には災いがあります！生まれてこなかった方がよかつでしょう。ヨハネ17:12私は、彼らと一緒にいた時、私に託してくださったお名前のためにいつも彼らを見守りました。私は彼らを守り、誰も滅びていません。滅びるあの者だけは別ですが、それは聖句が実現するためでしたと注釈滅びるあの者：直訳、「滅びの子」。この文脈で、この表現はユダ・イスカリオテを指す。ユダは神の子を故意に裏切ったので、復活のない永遠の滅びに値する者となった。テサニ2:3では、「不法の者」を指して同じ表現が使われている。聖書の原語で、「の子（たち）」という表現は、ある一定の行動を取る人やある性質を示す人に関して比喩的に使われることがある。例として、「至高者の子」、「光の子であり、昼の子」、「王国の子たち」、「邪悪な者の子たち」、「悪魔の子」などがある。(ルカ6:35。テサニ5:5。マタ13:38。使徒13:10) それと似た使い方として、「の子」という表現は、ある一定の行動を取ったりある性質を示したりしたために受ける裁きや生じる結果を指すこともある。サニ12:5で「死に値します」と訳されている表現は、直訳すると「死の子です」となる。マタ23:15では、直訳すると「ゲヘナの子」となる表現が、永遠の滅びに値する者に関して使われている。イエスはそういう意味でユダ・イスカリオテを「滅びの子」と呼んだと思われる。マタ23:15の注釈と用語集の「ゲヘナ」を参照。

も参照。) ユダは、自分がしていることがエホバやイエスに反抗していることになるということを知っているながら故意にそうしたからです。(マルコ3:29) ただし、聖なる力を冒瀆する人は永久に許さず、永遠の罪を負うのと注釈聖なる力を冒瀆する：冒瀆は、神や神聖な物事に対する誹謗中傷や暴言を指す。聖なる力は神ご自身から出ているので、その働きに対する故意の反抗や否定は神への冒瀆になる。マタ12:24、28とマル3:22に示されている通り、ユダヤ人の宗教指導者は、奇跡を行うイエスに神の聖なる力が働くのを見ながら、その力を悪魔サタンによるものとした。

永遠の罪を負う：永遠に消し去られることのない故意の罪を指すようだ。

そのような罪を覆う犠牲はない。この節の聖なる力を冒瀆するに関する注釈と並行記述のマタ12:31の注釈を参照。) またイエスは、自分に敵対した宗教指導者たちには復活の希望がないと言いました。(マタ23:33蛇よ、毒蛇のような者たちよ、あなた方はどうしてゲヘナの処罰を逃れられるでしょうか。ヨハネ19:11イエスは答えた。「天から与えられていなかったなら、あなたは私に対して何の権限もないでしょう。それで、私をあなたに引き渡した人の罪はもっと重いのです」と注釈「人天から：または、「上から」。ギリシャ語アノ

一テンは、こことヤコ 1:17; 3:15, 17 で、「天から」と訳されている。同じ語がヨハ 3:3, 7 で使われていて、そこでは「再び（改めて）」とも「上から」とも訳せる。ヨハ 3:3 の注釈を参照。 人: イエスは、ユダ・イスカリオテなどの特定の人ではなく、自分を殺す罪に関わった全ての人を念頭に置いていたようだ。その中には、ユダ、「祭司長たちとサンヘドリン全体」、さらには説き伏せられてバラバの釈放を求める「群衆」が含まれていた。（マタ 26:59-65; 27:1, 2, 20-22。ヨハ 18:30, 35）」の項目を参照。）使徒パウロも、悔い改めない背教者たちには復活の希望はないと警告しています。（ヘブ 6:4-8 次のような人たちもいます。一度啓発を受け、天からの無償の贈り物を味わい(*経験し)、聖なる力を与えられ、5 神の良い言葉とこれから来る体制(*時代)の力を味わいながら、6 それでも離れ去った人たちです。そういう人たちを再び悔い改めに導くことは不可能です。彼らは神の子を自分たちでもう一度杭にくぎ付けにし、さらし者にしているからです。7 地面は、たびたび降る雨を吸い込み、耕す人々にとって良い作物を生み出すとき、神から祝福を受けます。8 しかし、いばらやアザミを生み出すなら、見捨てられ、やがて災いを被り、最終的には焼かれてしまいます；10:29 では、ある人が神の子を踏みつけ、自分を神聖にした契約の血をありふれたものと見なし、神の惜しみない親切の表れである聖なる力をひどく侮った場合、はるかに厳しい処罰に値すると思いませんか）

12. エホバの憐れみについてはどんなことを知っていますか。

12 では、エホバの憐れみについて私たちはどんなことを知っているでしょうか。エホバが「一人も滅ぼされ[ない]ことを望んでいる」ことはどんなことから分りますか。重大な罪を犯した人たちに、エホバがどのように憐れみを示したのか考えてみましょう。ダビデは姦淫や殺人などの大きな罪を犯しました。でも心から悔い改めたので、エホバは憐れみを示してダビデの罪を許しました。（サム二 12:1-13 それでエホバはナタンをダビデの所に遣わした。ナタンはダビデの所に来て言った。「ある町に2人の男性がいました。1人は裕福な人、もう1人は貧しい人でした。2裕福な人は非常に多くの羊や牛を持っていました。3しかし貧しい人には、自分で買った小さな雌の子羊が1匹いるだけで、ほかには何もいませんでした。その人はその子羊を世話し、子羊はその人の家族と一緒に成長していきました。その人は、少ない食べ物の中から子羊に食べさせ、自分の器から飲ませ、腕の中で寝させました。子羊は娘のようになりました。4ある時、1人の旅人が裕福な人の所にやってきました。ところが裕福な人は、その旅人のために自分の羊や牛を振る舞おうとはせず、貧しい人の雌の子羊を取って、それを振る舞いました」。5するとダビデはその人に非常な怒りを感じ、ナタンに言った。「生きている神エホバに懸けて言います。そんな男は死に値します！6その男は4匹の子羊で償うべきです。相手の気持ちも考えずにそんなことをしたからです」。7そこでナタンはダビデに言った。「その人はあなたのことです！イスラエルの神エホバはこう言っています。『私はあなたを選んで(d*に油を注いで)イスラエルの王とし、あなたをサウルから助け出した。8あなたの主人の家のものと妻たちを喜んで与え、イスラエルヒュダの民を与えた。もしそれでも足りなければ、もっと与えるつもりだった。9どうして私エホバにとって悪いことを行って、私の言葉を軽く見たのか。あなたはヘト人ウリヤを剣で討った！彼をアンモン人の剣で殺してから、彼の妻を自分の妻にした。10今後、あなたの家族は常に剣に悩まされる。あなたがヘト人ウリヤの妻を自分の妻にし、私を侮ったからだ』。11エホバはこう言っています。『私はあなたへの災いをあなたの家族の中から生じさせる。あなたの目の前で妻たちを取り上げて別の人(*あなたの仲間)に与える。その人は白昼堂々(d*太陽の目に向かって)あなたの妻たちと寝る。12あなたはひそかに行つたが、私はイスラエル全体の前で堂々と(d*太陽の前で)このことを行う』」。13ダビデはナタンに言った。「私はエホバに対して罪を犯しました」。ナタンはダビデに言った。「エホバはあなたの罪をお許しになります。あなたは死ぬことはありません）マナセは長い間、エホバから嫌われることを大々的に行っていました。本当にひどいことをしていましたが、マナセが悔い改めた時、エホバはそれを憐れみを示す根拠として許しました。（代二 33:9-16マナセはユダとエルサレムの住民を惑わし続け、イスラエル人の前からエホバが滅ぼし尽くした国々よりも悪いことを行わせた。10エホバはマナセと民に語り続けた。しかし彼らは注意を払わなかった。11それでエホバはアッシリヤの王の軍隊長たちを彼らに差し向けた

。軍隊長たちはマナセをかぎで引っ掛けで(if*岩の裂け目で)捕らえ、銅の足かせ2つをはめてバビロンへ連れていった。12マナセは苦難の中、エホバ神に恵みを求め、父祖たちの神の前でとても謙遜になった。13彼が神に祈り続けたので、神はその懇願に心を動かされ、恵みを求める願いを聞き、彼をエルサレムでの王位に復帰させた。こうしてマナセはエホバこそ真の神であると悟った。14その後、マナセは「ダビデの町」のため、谷(*ワジ)にあるギホンの西に、外側の城壁を「魚の門」まで築いた。それをオフェルまで巡らし、非常に高くした。マナセはまた、ユダの防備された町全てに軍隊長を任命した。15エホバの家から外国の神々と偶像を取り除き、エホバの家の山とエルサレムに作った祭壇を全て取り除いて、都市の外に捨てた。16エホバの祭壇を復旧させ、そこで共食の犠牲と感謝の犠牲を捧げ始めた。そしてイスラエルの神エホバに仕えるようユダに命じた)こうした例から分かるように、エホバは憐れみを示す理由が少しでもある場合、いつでも進んでそうしてください。エホバはダビデやマナセを復活させます。自分の罪を認め、心から悔い改めたからです。

13. (ア) エホバがニネベの人たちに憐れみを示したのはどうしてですか。 (イ) 後にイエスはニネベの人たちはどうなると言いましたか。

13 エホバの憐れみは、ニネベの人たちに対しても示されました。エホバはヨナに、「その人々の悪は目に余るものがある」と言いました。でも人々が罪を悔い改めた時、エホバは憐れみ深く許しました。それに対してヨナは怒りましたが、エホバはニネベの人たちは「何がなくて何が悪いかを知らない」ということをヨナに思い起こさせました。 (ヨナ 1:1, 2 エホバはアミタイの子ヨナ(m*ハト)に言った。2 「大都市ニネベに行き、処罰について知らせなさい。その人々の悪は目に余るものがある」:3:10 真の神は、彼らがしたこと、悪い行いをやめた様子を見て、彼らにもたらすと言った災いについて考え直し(*悔やみ)、災いをもたらさなかった;4:9-11 神はヨナに尋ねた。「あなたがヒョウタンのことでどのように怒るのは正しいことなのか」。ヨナは言った。「正しいことです。死にたくなるほど怒っています」。10 エホバは言った。「あなたは、自分で手間をかけたわけでも育てたわけでもないヒョウタンを惜しんでいる。それは一夜にして育ち、一夜にして枯れた。11一方、大都市ニネベには、何がなくて何が悪いか(*右と左の違い)を知らない12万人以上の人や多くの家畜がいる。私がニネベを惜しむのはもっともなことではないか」)後にイエスはこの例を引き合いに出して、エホバが公正で憐れみ深い方であるということを教えました。そして、悔い改めた「ニネベの人々は裁きの際に……復活」すると言いました。 (マタ 12:41 ニネベの人々は裁きの際にこの世代と共に復活し、この世代を断罪します。ニネベの人々はヨナの伝道によって悔い改めたからです。しかし見なさい、ヨナを上回る者がここにいます)

14. ニネベの人たちにとって、「裁きの復活」はどんなことを意味しますか。

14 ニネベの人たちが「裁きの際に……復活」するとはどういう意味でしょうか。イエスは将来の「裁きの復活」について言っていました。(ヨハ 5:29 良いことをした人は命の復活へ、悪いことを行った人は裁きの復活へと出てきます) 千年統治の間に「正しい人も正しくない人も復活」します。 (使徒24:15 また、私はこの方たちと同じ希望を持っております。神が正しい人も正しくない人も復活させてくださるという希望です) その復活は、正しくない人にとって「裁きの復活」になります。つまり、エホバとイエスは、その人が神から教えられることに従うかどうかを観察し、評価するということです。復活してくるニネベの人たちが清い崇拝に加わることを拒むなら、生き続けることはできません。(イザ 65:20 「そこには、数日しか生きない乳児も、寿命を全うしない老人もいなくなる。罪人は100歳であって災いを受け(if*100歳に達しない者は災いを受けたと見なされ)、100歳で死んだ者も少年と見なされるのである)でも、エホバに仕えることを選ぶ人たちは永遠に生きる見込みを持つことができます。 (ダニ

12:2 地面の中で眠っている多くの人が目を覚します。あるたちは永遠の命を得、あるたちはとがめられて永久に嫌悪されます)

15. (ア) ソドムとゴモラの人たちは誰も復活しないと言うべきでないのはどうしてですか。 (イ) ユダ7節の言葉をどのように理解できますか。 (「ユダの言葉をどう理解できますか」の囲みを参照。)

15 イエスは、ソドムとゴモラの人たちが「裁きの日に」受ける処罰は、イエスを退けた人たちよりも軽いと言いました。 (マタ 10:14, 15 どこでも、人があなたたちを迎えず、話を聞かない所では、その家や町を出る時に、足の土を振り払いなさい。 15 はっきり言いますが、裁きの日には、その町よりソドムとゴモラの方が処罰が軽いでしょう; 11:23, 24 カペルナウムよ、あなたが天に上げられるようなことがあるでしょうか。あなたは墓に下るのです。あなたのなかでなされた強力な行いがソドムでなされていたなら、ソドムは今日まで残っていだでしょう。 24 実際、裁きの日には、あなたよりソドムの方が処罰が軽いでしょう。ルカ 10:12 あなたたちに言いますが、その日には、その町よりソドムの方が処罰が軽いでしょう) これはどういう意味でしょうか。イエスはソドムとゴモラの人たちを引き合いに出し、イエスの時代の人たちの邪悪さを強調するためには誇張した言い方をしていたにすぎない、と思えるかもしれません。でも、ニネベの人たちの復活について話した時と同じように、イエスはおそらく文字通りの意味でそう言ったのであり、単に誇張した言い方をしていたわけではなかったようです。イエスがソドムとゴモラの人たちについて使った「裁きの日」とニネベの人たちについて使った「裁きの際」という表現は同じ時のことと指しています。考えてみると、ニネベの人たちの場合、悔い改める機会がありました。さらにイエスは「裁きの復活」を経験する人たちの中に、「悪いことを行った人」も含まれると言いました。 (ヨハ 5:29 良いことをした人は命の復活へ、悪いことを行った人は裁きの復活へと出てきます) そうであれば、ニネベの人たちと同じく悪いことをしたソドムとゴモラの人たちの中にも、復活して悔い改める機会が与えられる人がいるかもしれません。そして私たちには、もしかすると復活してくれるそうした人たちに、エホバやイエス・キリストについて教える機会があるかもしれません。

ユダの言葉をどう理解できますか

イエスが亡くなつてから数十年後、イエスの異父兄弟だったユダは、ソドムとゴモラと周りの町が「永遠の火による処罰を受け[た]」と書きました。 (ユダ7 同じように、ソドムとゴモラと周りの町も、甚だしい性的不道徳(*)に溺れ、不自然な肉欲を満たそうとしました。そのため、永遠の火(c*永遠の滅びを表している)による処罰を受け、私たちへの警告となっています) これはどういう意味でしょうか。ユダの言葉はイエスの言葉と矛盾しているでしょうか。 (ルカ 10:12 あなたたちに言いますが、その日には、その町よりソドムの方が処罰が軽いでしょう) そうではありません。イエスはソドムとゴモラの全ての人が復活するとは言いませんでした。一部の人には希望があるということを言っていたと思われます。不道徳な行いに対する警告として永久に滅ぼされたのは、住民全てではなく、町そのものだったようです。ユダが書いたことは、預言者エレミヤの言葉と調和しています。エレミヤは、ソドムとゴモラと周りの町は、永久に滅ぼされた古代のエドムやバビロンのように二度と修復されたり人が住んだりすることがない、と説明しました。 (エレ 49:17, 18 エドムは必ず恐怖の光景となる。通り掛かる人は皆、恐怖を抱いて見つめ、もたらされた全ての災厄のために口笛を吹く。 18 ソドムとゴモラと近くの町々が滅ぼされた時のように、誰もそこに住もうとせず、誰一人定住しない) と、エホバは言う: 50:35 エホバはこう宣言する。「剣がカルデア人を襲う。それはバビロンの住民と高官と賢人を襲う。 39, 40 砂漠の生き物が、遠ぼえする動物と共にすみ、彼女の中にダチョウがすむ。そこに人が住むことは二度となく、いつの時代までも居住地にはならない」。 40 エホバはこう宣言する。「神がソドムとゴモラと近くの町々を滅ぼした時のように、誰もそこ

に住もうとせず、誰一人定住しない) ヨハネや使徒ペテロの言葉からすると、エホバに滅ぼされたソドムとゴモラの人たちの一部は復活しない可能性もあります。 (ペテロ 2:6 また、2つの町ソドムとゴモラを断罪し、焼き尽くして灰にし、神を敬わない人たちが将来どうなるかを示しました)

16. 復活させる人をエホバがどのように決めるかについて、私たちは何を知っていますか。 (エレミヤ 17:10)

16 エレミヤ 17:10 私エホバは、心を探り、奥底の考え(*奥底の感情/d 脅威)を調べている。一人一人に、生き方に応じて、行ったことに応じて報いるためにを読む。この聖句から知ることができるのは、エホバがどんな時も「心を探り、奥底の考えを調べる」神である、ということです。それで将来の復活についても、エホバが「一人一人に、生き方に応じて……報い」てくださることを確信できます。エホバはご自分の正しさの基準を曲げることはしませんが、可能なときには喜んで憐れみを示します。ですから、聖書にはつきりと書かれていない限り、私たちは誰かについて復活の希望がないと決め付けてはなりません。

「地上の人全てを裁く方は、正しいことを行われる」

17. これまでに死んだ人たちはどうなりますか。

17 アダムとエバがサタンの側に付いてエホバ神に反逆してから、数え切れないほど多くの人が死にました。死は本当に恐ろしい「敵」です。 (コリヤ 15:26 そして最後の敵である死が除き去られます) これまで亡くなったりたちはどうなるのでしょうか。キリストに忠実に従ってきた 14 万 4000 人は天に復活し、不滅の命を与えられます。 (啓 14:1 私がさらに見ると、子羊がシオンの山に立っていた) そして子羊と共に 14 万 4000 人の者たちがいて、彼らの額には子羊の名とその父の名が書かれていた) エホバを愛して忠実に仕えた大勢の人たちは、エホバが「正しい人[を]復活させてくださる」時に生き返ります。そして、キリストの千年統治とそれに続く最後の試練の間も正しい人であり続けるなら、地球でいつまでも生きることができます。 (ダニ 12:13 あなたは最後まで進んでいきなさい。あなたは休みますが、日々の終わりに、報いを受けるために(*自分の取り分のために/割り当てられた場所で)立ち上がります。 ヘブ 12:1 それで、これほど大勢の(*大きな雲のような)証人たちに囲まれているのですから、私たちもあらゆる重荷と、すぐに絡み付く罪を捨て、参加している競走を忍耐して走りましょう) これまでエホバに仕えてこなかつた人や「悪いことを行った人」を含む「正しくない人」も復活してきます。そうした人たちは、千年統治の間に生き方を変えてエホバに仕えるチャンスを与えられます。 (ルカ 23:42, 43 さらに言った。「イエス、王国に入る時に私を思い出してください」。43 イエスは言った。「今日あなたに言います。あなたは私と共にパラダイスにいることになります」) とはいって、エホバやエホバの考えに全く従おうとしたかった悪い人たちについては、エホバは復活させないと決めています。 (ルカ 12:4, 5 友よ、さらに言いますが、体は殺せてもその後は何もできない人たちを恐れはなりません。5 しかし、誰を畏るべきかを示しましょう。殺した後でゲヘナに投げ込む権威がある方を畏れなさい。そうです、この方を畏れなさい)

18-19. (ア) 裁くことについてエホバを信頼できるのはどうしてですか。 (イザヤ 55:8, 9) (イ) 次の記事ではどんなことを考えますか。

18 私たちは、エホバが人を裁く時はいつでも正しい判断をしてくださることを確信できます。アブラハムがよく理解していたように、「地上の人全てを裁く」エホバは、完璧で、豊かな知恵を持ち、憐れみ深い方です。エホバはイエスを教え、全ての人を裁く責任を委ねています。 (ヨハネ 5:22 父は誰一人裁かず、裁くことを全て子に委ねています) エホバもイエスも一人一人の心を読むことが

できます。（マタ 9:4 イエスはその考えが分かり、こう言った。「なぜ邪悪なことを心の中で考えているのですか）そしてそれぞれに対して、「正しいこと」を行います。

19 エホバが全てをよくご存じであることを確信しましょう。私たちには裁く権限も能力もありますが、エホバにはあります。（イザヤ 55:8, 9 エホバはこう宣言する。「私の考えはあなたたちの考えとは違う、あなたたちの行い(*道)は私の行いとは違う。9天が地より高いように、私の行い(*道)はあなたたちの行いより高く、私の考えはあなたたちの考えより高いを読む。）それでエホバとイエスを信頼し、裁くことは全て任せましょう。王であるイエスはエホバと全く同じように公正で憐れみ深い裁きを行います。（イザ 11:3, 4 彼は喜んでエホバを畏れる。見える事柄だけに基づいて裁くことをせず、聞いた事柄だけに基づいて戒めることもしない。4立場が低い人たちを公平に(*正しく)裁き、地上の温厚な人たちのために公正に戒めを与える。口から出る棒で地上を打ち、唇から出る息で邪悪な人々を死に至らせる）では、大患難の時にエホバとイエスはどのような裁きを行うのでしょうか。私たちはどんなことを知っていて、どんなことを知らないでしょうか。こうした点を次の記事で考えます。

正しくない人の復活について…

1. どんなことを知りませんか。

・S07 大洪水の時やイスラエル人がカナンの地を征服する時に滅ぼされた人たちについて、エホバが一人一人をどのように裁いたかは分からず、滅ぼされた人たちに、エホバについて学び、生き方を改める機会があったかどうかも分からず。大洪水が起きた時代、ノアは「正しいことの伝道者」だったが、でも、ノアが巨大な箱船を造りながら地球上にいる全ての人に洪水について警告できたとは書かれていません。同じように、カナンに住んでいた邪悪な人たちみんなに、エホバについて学び、生き方を改める機会があったかどうかも分からず。

・S08 ソドムとゴモラの人たちについてはどうでしょうか。正しい人口トは邪悪な人たちに囲まれて生活していました。でも、ロトがそれらの人全員に伝道したかどうかは分かりません。また、そこにいた人たち一人一人が、何が正しくて何が間違っているかを知っていたかどうかも分からず。確かにエホバは、この町には正しい人が10人もいないとアブラハムにはっきり言い、エホバがその人たちを滅ぼしたのは正当なことだったが、その人たちのうちの誰も「正しくない人[の]復活」を経験しないとはいはず、私たちにははっきりしたことは分からず。

・S09 エホバから沢山の良いものを与えられていたのに後に偽りの神々を崇拜するようになったソロモン王だったが、死に関して使われている元のヘブライ語を直訳すれば、ソロモンは「父祖たちと共に横たわ」ったと表現。この表現は、ダビデ王などエホバに忠実に仕えた人についても使われているので、このように埋葬されたことは、ソロモンが復活する根拠になるとも考えられるが、聖書にそうは書かれていません。ただ、「死んだ人は自分の罪から放免されている」ので、ソロモン王は復活すると考える人もいるかも。

2. どんなことを知っていますか。

・S10 エホバは「一人も滅ぼされ[ない]ことを望んで(いる)」おられるので、エホバは十分な理由がない限り、誰かを永久に滅ぼすようなことはせず、可能な限りいつでも憐れみを示してくださいとを知ることができます。

・S11 ユダ・イスカリオテは、自分がしていることがエホバやイエスに反抗していることになるということを知つながら故意にそうしたので、イエスが言われたとおり復活しない。またイ

エスは、自分に敵対した宗教指導者たちには復活の希望がないと言った。使徒パウロも、悔い改めない背教者たちには復活の希望ないと警告した。

・S12 ダビデは姦淫や殺人などの重大な罪を犯したが、心から悔い改めたので、エホバは憐れみを示してダビデの罪を許された。マナセは長い間、エホバから嫌われることを日々的に行っていったが、悔い改めた時、エホバはそれを憐れみを示す根拠として許された。エホバは憐れみを示す理由が少しでもある場合、いつでも進んでそうしてください。エホバはダビデやマナセを復活させる。

・S13-14 エホバがニネベの人たちに憐れみを示され、後にイエスが言わされたとおり、悔い改めた「ニネベの人々は裁きの際に……復活」する。その復活は、正しくない人にとっては「裁きの復活」となり、エホバとイエスが、その人が神から教えられることに従うかどうかを観察し、評価される。エホバに仕えることを選ぶ人たちは永遠に生きる見込みを持つことができる。

・S15 イエスがソドムとゴモラの人たちについて使った「裁きの日」とニネベの人たちについて使った「裁きの際」という表現は同じ時のことを探している。ニネベの人たちの場合、悔い改める機会がありました。さらにイエスは「裁きの復活」を経験する人たちの中に、「悪いことを行った人」も含まれると言わされた。そうであれば、ニネベの人たちと同じく悪いことをしたソドムとゴモラの人たちの中にも、復活して悔い改める機会が与えられる人がいるかもしれません。

イエスが亡くなつてから数十年後、イエスの異父兄弟だったユダは、ソドムとゴモラと周りの町が「永遠の火による処罰を受け[た]」と書いた。このユダの言葉はイエスの言葉と矛盾している訳ではない。イエスはソドムとゴモラの全ての人が復活するとは言わず、一部の人には希望があるということを言っていたと思われる。不道徳な行いに対する警告として永久に滅ぼされたのは、住民全てではなく、町そのものだったよう。でも、ユダや使徒ペテロの言葉からすると、エホバに滅ぼされたソドムとゴモラの人たちの一部は復活しない可能性もある。

・S16 エホバがどんな時も「心を探り、奥底の考えを調べ[る]」神であられるので将来の復活についても、エホバが「一人一人に、生き方に応じて……報い」てくださることを確信できる。エホバはご自分の正しさの基準を曲げることはしないが、可能なときには喜んで憐れみを示される。それで、聖書にはっきりと書かれていない限り、私たちは誰かについて復活の希望がないと決め付けてはならない。

3. エホバが正しい裁きを行うと確信できるのはどうしてですか。

・S18 アブラハムがよく理解していたように、「地上の人全てを裁く」エホバは、完璧で、豊かな知恵を持ち、憐れみ深い方。エホバはイエスを教え、全ての人を裁く責任を委ねておられる。エホバもイエスも一人一人の心を読むことがおできになるので、人それぞれに対して、「正しいこと」を行ってくださる。

57 番の歌 あらゆる人に伝道する

^ 「ものの塔」2022年9月号 14-19ページを参照。

^ アダム、エバ、カインについては「ものの塔」2013年1月1日号 12ページの脚注を参照。

^ (創 18:25) 邪悪な人と一緒に正しい人も滅ぼして、正しい人と邪悪な人と同じ目に遭わせるようなことを、あなたがなさるはずはありません。あなたに限ってあり得ないことです。地上の人全てを裁く方は、正しいことを行われるのではありませんか」。